

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500328		
法人名	株式会社笑顔いちばん		
事業所名	グループホーム笑顔いちばん各務原		
所在地	岐阜県各務原市蘇原新栄町3丁目6番		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190500328-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、御入居様が笑顔で居られるよう、職員目線の安全自由ではなく、御入居者様目線での自由や安全な生活が日々送れるよう努めています。
ご家族様ともよく情報を共有させて頂き、ご本人様の支援に繋げています。
午前午後にはほぼ毎日運動する時間を設け、リラクゼーション器機も取り入れ健康寿命を伸ばす事、協力機関医とも相談を行い、いつまでも健康で自分らしい生活が出来るように支援させて頂いています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者が買い物や散歩も楽しむことが出来る、暮らしに便利な住宅街にある。「健康寿命を伸ばします」のスローガンは、職員の日々の支援目標として根付いている。利用者が自立した生活を少しでも長く送れるようにと、歩行訓練や運動を行うリハビリテーションスペースが設けられており、利用者は、自主的に運動を行う習慣ができ、日中の活動量が増えることで、夜間の良眠にも繋がっている。利用者のニーズに応じて国家資格保持者によるマッサージや可動域訓練等も行われている。医療機関との連携と学びを重ねた職員による支援で、利用者が日々、笑顔で健康に暮らせるよう取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社理念の「笑顔づくりは街づくり」を常に念頭に置き管理者、職員間で共有し利用者様の笑顔を引き出せるようなケアを実践している。	法人の共通理念について学ぶ、「社長塾」や研修会、学習会などを開催している。職員への周知と具体的な支援・対応策の教育が徹底されている。職員も利用者や家族、地域との関わりを大切にケア提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスの影響で思うように地域参加ができない状態であったが学生の実習の受け入れを行ったりと地域の繋がりを断つことの無いよう、施設が地域から孤立することが無い様努めている。	自治会員として、地域行事や活動に参加したり、近隣住民を交えた夏祭りなどを開催していたが、現在は、休止となった地域活動が多い。コロナ禍にあっても、交流が途絶えることのないよう、管理者が自治会との関係を継続していけるよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様のご家族様は無論の事、施設見学に来られた方にも施設の実績や経験を活かした内容の認知症の方への理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルスの影響で文章でのやりとりになっている。 施設での取り組みを報告しアドバイスを頂き、サービス向上に生かしている。	新型コロナ感染予防対策のため、運営推進会議は書面開催としている。会議メンバーに資料を送付し、委員から提出された意見書に回答や意見交換を行いながら、サービスの維持・向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃からの連絡は密には取れていないが、施設の実情を伝えている。	コロナ禍にあるが、行政とは、必要時には、窓口に出向いたり、電話や文書などで、事業所の状況についての報告及び相談を行いながら助言を得るなど、協力関係の継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護について勉強会を行っている。 身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、現在玄関の施錠は行っている。	3カ月毎に開催する勉強会や、月2～3回開催のケアカンファレンスを行い、利用者のケアについて検討している。職員は日々のケアにおいて、細心の注意を払いながら、身体拘束をしないケアの実践に努めている。今後、委員会を立ち上げることを検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の人権を守る事がケアの基本であるという認識を持ち、利用者様の身体観察を行い、傷、打撲当の変化があれば報告し全職員で共有している。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について、個別で勉強した方はいるがまだ共有、全体化できておらず活用出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、御家族様に分かり易く説明し、納得できているか確認しながら契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の意見を反映し運営は行えているが外部へ表せる機会が設けられていない。(運営推進会議のみでの発信にとどまっている。)	年1回の家族アンケートや、3カ月毎の対面時や電話で家族の意向を聞き、ケアに反映させている。面会や生活用品の補充などで、可能な限り家族に来所してもらい、利用者の状況を直接、家族に伝えるよう努めている。また、通信を毎月発行し、利用者の状況を写真入りで伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い運営状況や職員の意見及び提案を聞き現場に反映している。	ユニット会議や全体会議で、職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。施設長は、6～10月に職員全員と個別面談を行い、思いや希望、悩み、将来の目標などを聞く機会を設けている。できる限りのサポートを行いながら、職員の意見を運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の向上心をそぐことの無い様に現場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通じ、同業者と交流する機会をつくりサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員全員で利用者様及びご家族様の不安の軽減に努めている。ご家族様が来所された際には利用者様の状況説明を行いより良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、御家族様、ご本人様のご要望に耳を傾け、都度電話連絡等を行い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者と共に利用者様とご家族様が何を必要としているのかを極め、支援方法を確立出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様お一人お一人の残存機能を最大限に発揮できる関係、環境づくりができる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の「通信」により施設でのイベントの紹介やご本人様の様子をお知らせし、ご家族様との絆を絶やすことなくご本人様を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において外出外泊の中止は余儀なくされているが、御家族様や馴染みの方との関係が途切れてしまわない様、リモート面会を行っている。	感染予防の為、家族との外食や外泊も休止している。ホーム内の感染予防対策を整えた上で、できる限り家族に来所してもらい、透明シート越しの面会やリモート面会を実施するなど、利用者と家族が互いに顔を見ながら安心できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様お一人お一人に合った方法で支援を行っている。 1人で過ごされる事がない様、職員が間に入り利用者様同士が関わっていける環境を提供出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様から相談等があった場合には誠意をもって対応させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを開き利用者様本位の計画書作成にあたり本人様に寄り添った支援が出来る様に努めている。	利用者のそばに座ってコミュニケーションを図り、じっくりと時間をかけて関わるよう心がけている。会話や行動をさり気なく観察し、利用者の思いを受け止め、本人本位の支援に繋げている。意思表示が難しい利用者の方は、家族の協力も得て、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前迄の本人様の生活歴、生活環境をご家族様に伺い、現在までの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り及びミーティングで本人様の心身状態等の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様及びご家族様の意向を反映した介護計画を作成し定期的に見直しを行いご家族様に説明を行っている。	担当者が中心となり、家族の意向、医師、看護師等の意見をまとめ、ケアマネジャーがプランを立案している。検討会で話し合いながら、介護計画を作成し、本人と家族の同意を得ている。定期的カンファレンスを行い、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の状況の把握、共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに訪われずに職員本位ではなく利用者様本位のサービスの提供に努めている。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様の面会を大切にし本人様の安心に繋げていけるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を基本としつつ、施設の協力医療機関の医師と連携を取り利用者様が適切な医療を受けられるように支援している。	希望により、従前のかかりつけ医を継続する利用者と協力医による健康管理を受ける人がある。現在、1名が従前のかかりつけ医を利用している。受診は、家族が同行しているが、家族の対応が難しい場合は、職員が代行し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の早い段階での状況変化や異常に気づき、いち早く医療と連携し適切な受診や介護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院される際には本人様のストレス軽減の為に医療機関に対して本人様の情報提供やケアについて話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医及びご家族様と意向確認を行いながら対応の共有を図っている。	入居時に、重度化や終末期に向けた方針を家族に説明し、意向を確認している。看取りケア時には、勉強会やカンファレンスを重ねて、充実したケアの提供に努めている。協力医の交代を機に、医師、訪問看護師、事業所のケア体制の再構築に取り組んでいる。	年末に経験した看取りケアを、次のケアに活かす為に全職員で共有することが望ましい。職員が、終末期ケアを利用者と家族の思いに寄り添いながら、不安なく行えるよう具体的かつ実行可能なマニュアルの作成に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様急変時対応及び事故発生時対応についてはマニュアルに基づき定期的に訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の具体的な避難策の検討、確認を行っている。	昼夜を想定した火災時の訓練は、年2回実施している。施設長の交代があった為、災害時においての地域関係者や住民との協力関係再構築に取り組んでいる。職員が、スムーズに対応ができるよう、具体的な災害対策の整備、備蓄品の管理などの見直しを行っている。	近年、想定外の災害も多いため、周辺の災害リスクについては地域住民から情報収集も必要と思われる。自治会長を含めた連絡網の作成や備蓄の管理について検討中でもあり、事業所独自のマニュアル作成にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳と権利を守る為、言葉かけには注意して支援を行っている。	利用者の笑顔を引き出すケアを理念に掲げている。職員は、利用者一人ひとりとコミュニケーションを図れるよう時間を作り、思いを受け止めるよう心がけている。また、研修で学びながら、職員同士が助言しあい、互いに資質向上に努めながら、より良い利用者支援に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、その人らしい希望や願いを引き出し自己決定が出来る様に支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様お一人お一人のペースに合わせ都度、柔軟且つ適切な関わり方を持ち希望に添った支援を行える様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際に本人様が洋服の選択が出来るように声かけを行い職員側の一方的な支援ではなく希望に合わせた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みも入れた献立になっている。食事一連の作業、例えば盛り付けなど利用者様と一緒にしている。	昼食は配食サービスを利用し、事業所で職員が利用者の状態に合わせた食事形態にし、提供している。朝・夕食、おやつと休日の食事は、職員が買い出しと調理を行っている。利用者の好みや希望、季節感を考慮した基本メニューから、1週間の献立をたて、提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏り、水分不足が起こらない様、職員全員が常に把握しご家族様にもお伝えし適切な食事の提供に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、残存能力を生かし、口腔内の清潔保持に努めている。		

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を考慮しつつ、オムツ等の使用を減らし本人様の排泄パターンの把握に努めている。又状況に応じて声かけを行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、声かけとトイレ誘導を行いながら、排泄の自立に向けたサポートを行っている。夜間のみポータブルトイレを利用する人もあり、個々の心身の状況に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄間隔の周期を把握し、状況に応じて腹部マッサージを行い、便秘に良い飲食物を選択し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様と職員で相談し、入浴日の決定は行っている。 常にくつろいだ気分で入浴して頂ける様、支援に努めている。	入浴は週2回を基本とし、午前中に個浴槽での入浴を支援している。浴槽へのまたぎが困難となった場合は、利用者の安全と安楽に入浴ができるよう、機械浴での支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活パターンに合わせ、自然なリズムでの睡眠がとれる様居室内の温度調整等も意識して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬情報を把握し薬の副作用、用法、用量の把握に努めている。 飲み忘れや誤訳を防ぐ取り組みを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人が楽しみ、役割を持ち自分らしく暮らしていける様、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様希望時などに施設周辺の散歩を行っている。施設敷地内にベンチも複数用意し疲れた際には休憩を取るスペースも設けている。	感染予防のため、外出場所の制限をしている。感染対策をした上での近隣の散歩や、敷地内に作られたウォーキングスペースを歩いたり、2階にある広いベランダでお茶会を楽しむなど、外気を浴びながら気分転換ができるよう工夫している。	

岐阜県 グループホーム笑顔いちばん各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設側が金銭管理を行っている。必要があればご家族様、及び施設側で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には施設側が御家族様対応を行っている。ご家族様及び利用者様が必要と仰られた際には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は利用者様が使いやすいように職員間で話し合い、障害となるものは設置しないよう努めている。 利用者様と一緒に季節の作品作りを行い季節感のある生活を送って頂いている。	広い共有スペースには、テーブル席、ソファ、オープンキッチンがあり、それを囲むように居間が配置されている。利用者が、安全かつ開放的な気持ちで過ごせる空間となっている。事業所の特徴でもある生活機能改善室があり、利用者が好きな時に運動したり、リハビリを行うなど、活動的に過ごせる環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の要望に添い、職員間で話し合い、落ち着いて過ごして頂けるような共有空間の環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様及びご家族様の要望に沿った家具の配置、落ち着いて過ごして頂けるような環境づくりに努めている。	利用者が居心地よい部屋作りができるよう、居室毎に壁の色と素材が異なり、ベッド以外の家具は利用者の好みの物を持ち込むことができ、仏壇を持ち込む利用者もある。職員は、家族の協力を得ながら利用者の馴染みの家具を配置し、家族写真や装飾品を飾るなど、居心地の良い空間作りのサポートを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の残存機能を活かし、職員は利用者様のサポートという支援を心掛けている。 不安や混乱を招くことの無い環境づくりに努めている。		